

身体障害者診断書・意見書（呼吸器機能障害用）

総括表

氏名	年 月 日生（ ）歳	男・女
住所		
① 障害名（部位を明記）		
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、自然災害 疾病、先天性、その他（ ）	
③ 疾病、外傷発生年月日 年 月 日 ・ 場所		
④ 参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）		
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日		
⑤ 総合所見		
〔 軽度化による将来再認定 要 ・ 不要 （再認定の時期 年 月後） 〕		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 年 月 日 病院又は診療所の名称 所在地 診療担当科名 医師氏名（自署又は記名押印）		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見 [障害程度等級についても参考意見を記入] 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する（ ）級相当 ・該当しない		
注意 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次ページ以降の部分についてお問い合わせする場合があります。		

(該当するものを○で囲むこと。)

1 身体計測

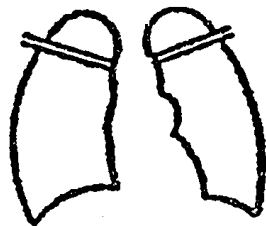
身長 cm 体重 kg

2 活動能力の程度

- ア 激しい運動をした時だけ息切れがある。
- イ 平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。
- ウ 息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることがある。
- エ 平坦な道を約 100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。
- オ 息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。

3 胸部エックス線写真所見 (年 月 日)

- ア 胸膜癒着 (無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度)
- イ 気腫化 (無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度)
- ウ 線維化 (無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度)
- エ 不透明肺 (無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度)
- オ 胸郭変形 (無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度)
- カ 心・縦隔の変形 (無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度)



4 換気機能 (年 月 日)

- ア 予測肺活量 ・ L (実測肺活量 ・ L)
- イ 1 秒量 ・ L (実測努力肺活量 ・ L)
- ウ 予測肺活量 1 秒率 ・ % (= $\frac{\text{イ}}{\text{ア}} \times 100$)

(アについては、下記の予測式を使用して算出すること。)

肺活量予測式 (L)

男性 $0.045 \times \text{身長 (cm)} - 0.023 \times \text{年齢 (歳)} - 2.258$

女性 $0.032 \times \text{身長 (cm)} - 0.018 \times \text{年齢 (歳)} - 1.178$

(予測式の適応年齢は男性 18-91 歳、女性 18-95 歳であり、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。)

5 動脈血ガス (年 月 日)

ア O₂分圧(注): _ _ _ . _ Torr []

イ CO₂分圧 : _ _ _ . _ Torr

ウ pH : _ . _ _

エ 採血より分析までに時間を要した場合 _ _ 時間 _ _ 分

オ 耳朶血を用いた場合: []

(注) O₂分圧は空気呼吸下の測定値を記入する。やむを得ず酸素呼吸下で採取した場合は、吸入酸素濃度及び投与の方法等の条件を右の[]欄に明記する。ただし、空気呼吸下の測定値再提出を要する場合がある。

6 その他の臨床所見